

1-3-15-1 高山市指定文化財（建造物） 国分寺鐘楼門

重層入母屋造六脚門、銅平板葺
桁行 3.045 メートル
梁間 2.4 メートル

建築年代は安土桃山時代（16 世紀）とされる。屋根はもと柿葺であったが、昭和 30 年に銅板葺とした。屋根の軒は一軒疎垂木、妻は木連格子である。上層は円柱で、簡素で力強い組物をもち、勾欄を廻す。下層は角柱 6 本で、それぞれに面取りがしてある。

梵鐘（市指定文化財）には、永正 11 年（1514）の古銘があり、もとは吉城郡荒城郷三日町（現国府町三日町）の十王堂の鐘であった。宝暦 11 年（1761）、大萱村横山作助が、改鑄して当山に寄進した。

国分寺の晩鐘は、飛州八景の随一として、「国分靈寺絶纖塵 雁塔今経幾許春 好是楼前視聴楽 暮鐘声裡月清新」（国分寺の境内は古びた三重塔がそびえ静かである。暮れゆけば鐘が鳴りわたり、月影清く美しい）とある。

昭和 33 年 9 月 27 日指定
高山市教育委員会

説明板より